

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.1.11-17

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:1 長老から、愛するガイオへ。私はあなたをほんとうに愛しています。

1:2 愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。

1:3 兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいます。

1:4 私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。

1:5 愛する者よ。あなたが、旅をしているあの兄弟たちのために行なっているいろいろなことは、真実な行ないです。

1:6 彼らは教会の集まりであなたの愛についてあかししました。あなたが神にふさわしいしかたで彼らに次の旅に送り出してくれるなら、それはりっぱなことです。

1:7 彼らは御名のために出て行きました。異邦人からは何も受けていません。

1:8 ですから、私たちはこのような人々をもてなすべきです。そうすれば、私たちは真理のために彼らの同労者となれるのです。

1:9 私は教会に対して少しばかり書き送ったのですが、彼らの中でかしらになりましたがっているデオテレベスが、私たちの言うことを聞き入れません。

1:10 それで、私が行ったら、彼のしている行為を取り上げるつもりです。彼は意地悪いことばで私たちをのり、それでもあきたらずに、自分が兄弟たちを受け入れないばかりか、受け入れたらと思う人々の邪魔をし、教会から追い出しているのです。

1:11 愛する者よ。悪を見ならわないで、善を見ならいなさい。善を行なう者は神から出た者であり、悪を行なう者は神を見たことのない者です。

1:12 デメテリオはみなの人からも、また真理そのものからも証言されています。私たちも証言します。私たちの証言が真実であることは、あなたも知っているところです。

1:13 あなたに書き送りたいことがたくさんありましたが、筆と墨でたくはありません。

1:14 間もなくあなたに会いたいと思います。そして顔を合わせて話し合ひましょう。

1:15 平安があなたにありますように。友人たちが、あなたによろしくと言っています。そちらの友人たちひとりひとりによろしく言ってください。

ガイオへの励ましと感謝、賞賛のことばに満ちています。私たちはこのようにもっと人への感謝・賞賛を表しても良いのではないのでしょうか。奉仕者、同労者、伝道者やささげる人などに、教会でも感謝と賞賛のことばをかけましょう。

それは私たちの心を豊かにします。また人間関係にも影響し、主への感謝にもつながるものです。対照的にデオテレベスについては警戒を促しています。ガイオが主と人のために生きていたのに対して、デオテレベスは自分のためというのがその動機になっていたようです。彼は霊的指導者の「言うことを聞き入れ」なかったようです。彼が上に立つか、または別の權威になりたかったからでしょう。自分の意に沿わない人に、意地悪か批判をして「教会から追い出している」というのですから、これは主に敵対していることとなります。ただ教会では、彼のことは「証言されています。」とありますから、信仰がしっかりした人々が動揺することはなかったようです。ヨハネも信頼できるガイオとそのことを分かち合って、協調

して対処しようとしていることが分ります。このように教会は主のために生きる人々が一致して、問題に取り組むならば、動揺することはないのです。ガイオのように信頼される者になりたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶12日 火曜

マタイ

1:1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。

1:2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、

1:3 ユダに、タマルによってパレスとザラが生まれ、パレスにエスロンが生まれ、エスロンにアラムが生まれ、

1:4 アラムにアミナダブが生まれ、アミナダブにナアソンが生まれ、ナアソンにサルモンが生まれ、

1:5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、

1:6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、

1:7 ソロモンにレハベアムが生まれ、レハベアムにアビヤが生まれ、アビヤにアサが生まれ、

1:8 アサにヨサパテが生まれ、ヨサパテにヨラムが生まれ、ヨラムにウジヤが生まれ、

1:9 ウジヤにヨタムが生まれ、ヨタムにアハズが生まれ、アハズにヒゼキヤが生まれ、

1:10 ヒゼキヤにマナセが生まれ、マナセにアモンが生まれ、アモンにヨシヤが生まれ、

1:11 ヨシヤに、バビロン移住のころエコニヤとその兄弟たちが生まれた。

1:12 バビロン移住の後、エコニヤにサラテルが生まれ、サラテルにゾロバベルが生まれ、

1:13 ゾロバベルにアビウデが生まれ、アビウデにエリヤキムが生まれ、エリヤキムにアゾルが生まれ、

1:14 アゾルにサドクが生まれ、サドクにアキ



ムが生まれ、アキムにエリウデが生まれ、
1:15 エリウデにエレアザルが生まれ、エレアザルにマタンが生まれ、マタンにヤコブが生まれ、

1:16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。

1:17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。

イエス様の系図です。マリアの方ではなく、血のつながらないヨセフの系統が書かれています。ユダヤでは男性の血統が重んじられたので、このようにして、イエス様が王家の流れであることを証明しているのです。

またアブラハムから始まっているのも、アブラハムを始祖とするユダヤ人を意識してのことで、これらのここからも、マタイによる福音書がユダヤ人を対象に書かれたことがわかります。

ただしその中には、ユダヤ人が疑問を持つような人々も記されています。タマルは異邦の遊女でしたし、ルツも異邦の女でした。ウリヤの妻をソロモンは正しい結婚ではありません。またソロモン以下の王たちも神様に反逆した者が多いのです。

それでもその家系から救い主が誕生したということは、深い意味があります。神様は人間の失敗や罪を超えることのできるお方です。またイエス様がそのような罪の流れにあることによって、罪をご自身が引き受けてくださったことの証しともなりました。

イエス様は、アブラハムに与えられた預言、すなわち「子孫によって、地のすべての国々は祝福を受ける」という約束を満ちし、王であることを表し、罪人と数えられることを実現して、お生まれになったのです。

このように神様は救いのために用意周到にご計画なさり実現されました。主の救いとご計画を、改めて信じ、信頼しましょう。期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶13日 水曜

マタイ



1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

1:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたに妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」

1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。

1:23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）

1:24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、

1:25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

イエス様の誕生は、全能の神様が人類の救いのために計画なさった、すばらしくも不思議なみわざです。それは世の基が定まる前からのご計画であり、また旧約聖書に明記されていたものです。

またイエス様の誕生は、無限永遠絶対の神様が人となって、有限の世界に来られ、人として弱い存在となられたという、驚くべき出来事です。そして何

より、人として全人類の罪を背負って刑罰を受けてくださったという、感謝に耐えない驚くべき恵の始まりでもあります。

そのような救い主の誕生が、極めて少数の人々の信仰によっているということは、考えると不思議です。将来的には不確実な感じもします。神様はご自分の御心にかなうた人を知っていて、そのような人に大切な働きを託されるのです。

神様が人となってお生まれになる…。その出産をするのは、当然人間しかあり得ません。マリヤはその大切な役目を全うしたのであり、ヨセフはその夫という役目を全うしました。同じように私たちもまた、神様が人の世界にみわざを行うという役目を担っています。伝道にしろ愛の行いにしろ、神様の使命を行うのは天使ではなく人間にしかできないことなのです。

マリヤは命をかけて、使命を果たす決心をしました。またヨセフも人生をかけて、また名誉を捨ててその決断をしました。彼らに倣って、私たちも主の御心を行いましょ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:1 イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。

2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」

2:3 それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。

2:4 そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。

2:5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」

2:6 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」

2:7 そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。

2:8 そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」

2:9 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。

2:10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

2:11 そしてその家にはいって、母マリヤとと

もにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

2:12 それから、夢でヘロデのところへ戻るなどという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

東の博士たちは、ユダヤの預言も知っていたかも知れません。また星の運行を研究し、当時としては相当な博学であったでしょう。その知識によって、救い主の誕生を知ったのですから大したものです。しかし、その救い主の本当の意味は知りませんでしたから、初めは「ユダヤ人の王」と理解し、当然王宮に生まれたと思ったのです。結果的にヘロデ王を保身に走らせ、2歳以下の男の子が殺されることになってしまいました。

博士たちに罪はありませんが、神様の救いの真理を知っているかどうかで、人間の働きや努力の価値が決まるということがわかります。クリスチャンがこの世のすばらしい働きをするのは、良いことに違いありませんが、神様の救いと永遠の真理や価値観を理解して、そのためにしているかどうかで、本当の価値は決まるのだと知りましょう。

もしも博士たちのように的外れであったことに気づいたなら、「別の道」を歩みましょう。主から「…戻るな」という御心が示されたなら、素直に従いましょう。努力が無駄であったとうことはないのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあを実践しますか？



2:13 彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現われて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を探し出して殺そうとしています。」

2:14 そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、

2:15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。」と言われた事が成就するためであった。

2:16 その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年令は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。

2:17 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。

2:18 「ラマで声がする。泣き、そして嘆き叫ぶ声。ラケルがその子らのために泣いている。ラケルは慰められることを拒んだ。子らがもういないからだ。」

2:19 ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現われて、言った。

2:20 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつけねらっていた人たちは死にました。」

2:21 そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地にはいった。

2:22 しかし、アケラオが父ヘロデに代わって

ユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。

2:23 そして、ナザレという町に行き住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる。」と言われた事が成就するためであった。

神様が行おうとすることには、どんな権力もそれを妨げることはできません。イエス様は守られましたが、権力者であったヘロデは死んで滅んでゆきました。私たちは主のご計画が成ることを確信して、従って行きましょう。

それにしてもイエス様が守られましたが、多くの子どもたちは殺されました。これはどのように考えたらよいのでしょうか。「

この「ラマで声が…子らのために泣いている。…」という預言は、エレミヤ書にあります。エレミヤ書にはイスラエルの反逆とその結果としてのさばきが記されており、この預言もその流れの中にあります。しかしその後には希望も記されているのです。「ラマで声がする…」というような、愛する者とともに子どもを失うという悲しみは、イスラエル全体のものであり、さらには人類全体の悲しみでもあるということです。

そしてその原因は何であるかということ、単にヘロデという圧制者だけでなく、人類が共通して持つ罪の問題なのです。全ての人の内にある罪が、自然を呪われたものとして、災害を引き起こします。罪が非人道的な圧制者を生み出し、それに従う者を起こすのです。そして人類は罪ゆえに神なき永遠の苦しみへと向かってゆくのです。悲しむ者は当時子を失った母親だけではなく、

これら人類の罪を自ら負って、十字架で身代わりの死を遂げてくださったのが、このときは命救われたイエス様であり、愛する子を失った悲しみにくれたは、父なる神ご自信であったのです。ま

さに神様が、このラケルの悲しみを含めて、人類の全ての悲しみを背負ってくださった…というべきでしょう。

主に感謝しつつ、そのような愛を実現された神様の全能を恐れて、信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:1 そのころ、バプテスマのヨハネが現われ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。
3:2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

3:3 この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」と言われたその人である。

3:4 このヨハネは、らくだの毛の着物を着、腰には皮の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった。

3:5 さて、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川沿いの全地域の人々がヨハネのところへ出て行き、

3:6 自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けた。

3:7 しかし、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。」

3:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。

3:9 『われわれの先祖はアブラハムだ。』と心の中で言うような考えではいけません。あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことができになるのです。

3:10 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。

バプテスマのヨハネが授ける洗礼は、いわゆる水の洗いであって、主イエスとともに死にとともに生き

るという意味ではありません。まだ十字架以前であったからです。それでも多くの人が洗礼にあずかったのは、神様の前で御心にかなった歩みをしたいと願ったからです。

私たちは十字架によって救われましたが、それにふさわしく神様の御心にかなった歩みをしているでしょうか。もしも救われているということに安住して、御心にかなう歩みへの意欲がなかったら、本当に悔い改めるべきです。また「悔い改めにふさわしい実を結ぶ」ことを本気で考えるべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:11 私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方はきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。

3:12 手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」

3:13 さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに來られた。

3:14 しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。」

3:15 ところが、イエスは答えて言われた。

「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」そこで、ヨハネは承知した。

3:16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。

3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」。

「聖霊と火」とは、聖霊による信仰の救いと、火のように汚れを焼き尽くすきよめを意味すると思われる。すなわち新生と聖化であり、救いを行いとも解釈できます。救いは信仰によります。すなわち

行いによらないのですが、その後のクリスチャンの行き方に行いはとても重要です。

主への感謝と愛に動機付けられ、また聖霊の力によって良い行いができるのです。良い行いをしたいと思わない人にとっては、「殻を消えない火で焼きつかされます。」ということばが有効になるでしょう。

イエス様は罪のないお方なのに、悔い改めまでも「正しいこと」として、模範を示されました。それはイエス様が人類の罪を背負うためです。罪の悔い改めは恥ずかしいことではなく、「正しいこと」です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

